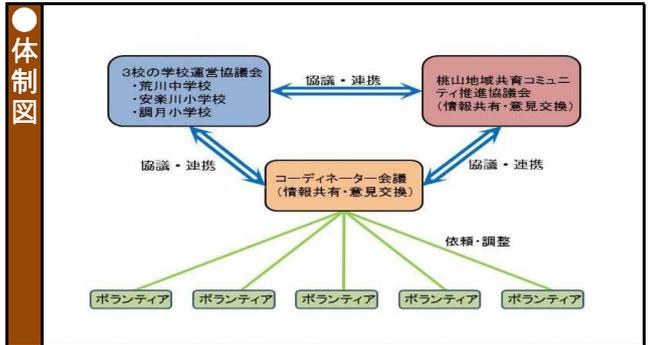


こんな活動です

# 「いってよかった 来てもらってよかった」をモットーに ～学校とボランティアが共に喜びを感じる活動～

和歌山県紀の川市	●活動名	●関係する学校名
	桃山地域共育コミュニティ推進協議会	紀の川市立荒川中学校 紀の川市立安楽川小学校 紀の川市立調月小学校

協働活動開始年度	平成 20 年度	関係学校数	3 校	のべ学級数	23 学級	のべ児童・生徒数	516 人
活動区分	学校支援活動	—		地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	1人		—		4人		
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無	
	平成29年5月17日設置					389人	
参考URL	—						



●連絡先	紀の川市教育委員会 生涯学習課	☎ 0736-79-3907
------	-----------------	----------------

●活動の概要・経緯

学校を支援する目的で、その希望に沿った内容のボランティア活動をしている。公民館がコーディネーターの役割を果たし、学校とボランティアの調整をしている。ボランティア同士の交流を持つための交流会を開催することにより人のつながりが広がっている。また、学校運営協議会とも情報共有し連携している。平成20年度からはじめた共育コミュニティ事業は、ボランティアが行ってよかった、学校が来てもらってよかったと喜びを感じることをモットーにWINWINの関係で息の長い活動となっている。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①人材育成：職場体験において、地元の特産である桃の袋がけの体験活動をする前に、地元の農家の方にブランドを維持するための苦勞や農家としての喜びを話してもらい、郷土を愛する心を育てている。
- ②防災訓練：平成20年度から避難訓練の際に、地元の和歌山大学や消防署と連携して、地域と学校が共に防災訓練を行っている。その後、共育ミニ集会を開くことで、学校関係者、保護者、地域住民が身近の防災を考える場となっている。
- ③協議会の開催：子供たちを学校・家庭・地域で育てる為に必要な情報共有・意見交換を図っていく場として年間2回開催している。
- ④学校支援活動：学校の地域連携担当教員とコーディネーターが連携して、年間計画をもとにミシンやそろばんの補助等を行っている。

### 【実施に当たっての工夫】

公民館に統括コーディネーターを置くことで、学校との連絡が早くスムーズに行えるようになる。また公民館が、各種団体とつながっているため協力への依頼がしやすくなっている。統括コーディネーターと学校コーディネーターが密に連携を取り合うことで情報共有が図れ、活動の幅が広がっている。年2回の協議会を開くことで、学校運営協議会・ボランティア・PTAの間で情報の共有を図り意見交換を通じてボランティア・PTAの考えや意見を学校に届けることができようになっている。また、交流会ではグランドゴルフを通じ、ボランティア、地元住民や保護者が集まり、話をする場となり、自然とつながりが生まれてきている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域の各種団体がボランティアとして登録し活動している。また団体のメンバーは個人として引き続きボランティアへ参加してくれている。学校での活動が生きがいとなりボランティア自らが更なる学びを続け、良いものを提供できるよう努力をしている。多くの知識や経験が子供のために生かされることで喜びを感じている。

保護者として支援されていた人が、活動を通してボランティアと交流することで、その必要性に気づき支援する側になってくれた。また、ボランティアの中からリーダーが生まれ、コーディネーターとしても活躍してくれている。

学校運営協議会にコーディネーターが参画することで、学校と共育コミュニティ推進協議会が目標やビジョンを共有した取組になっている。

## ●その他

学校支援としてミシンの学習支援などの事業補助をはじめ、ボランティア自らが戦争体験を子供に伝えていかなければと申し出、学校が受け入れるなど、学校と地域との関係は良好であり、潤滑油となる公民館やコーディネーターの役割が重要となる。



域73  
のグ年生  
方ル一社  
と一ブ会  
一と科  
緒分に  
訪かま  
問れ、  
、探  
9検  
名の  
様  
地子



月2回、低学年、高学年に分かれ、朝の学習時間に読みかせ（のべ80名の地域の方々）